

## 研究方法論Ⅱ 科目担当：坪内俊憲、水内宏

修士論文を構想するにあたって、あなたの証明したい「課題（命題）」はどのようなことでしょうか。現代社会における様々な「課題」は、最適な研究手法を用いて、目標である「課題」の「証明」に向かっていく必要があります。一つの学問分野だけに限られた知識や考え方、研究手法では、多様な人々が生活している社会の「課題」を「証明」していくことができません。論文をまとめるための調査研究においては、領域横断的に調査研究手法に関わる知識、基盤的能力を獲得し、調査研究を実践していく必要があります。

本講では、学習者の経験、テキスト学修と多分野の教員によるスクーリング、事後学修によって、量的情報・データを用いた調査研究方法を実践するための基盤として、①課題設定、論理構成力、②「課題」を「証明」できる量的データを考察し、データ取得方法を企画立案力、③量的研究手法、実験手法による情報・データの整理・分析手法、④論文の構成力、論述力を修得することを狙いとしています。

## 研究方法論Ⅱ シラバス 科目担当コーディネーター：坪内俊憲、水内宏

科目名	研究方法論Ⅱ	担当教員	坪内俊憲、水内宏
科目属性	基幹科目	単位数	2単位（面接0.5単位）
<b>【授業の目的・ねらい】</b>			
<p>この授業は「課題（命題）」を「証明」する調査研究のために不可欠な基本的な要素を理解することを目的としています。</p> <p>調査研究から得られる情報は量的データと質的データがあるが、本講では量的データを用いた調査研究方法を取り扱います。テキスト学修、多分野の教員によるスクーリング、事後学修により、量的情報・データを用いた研究方法を学習し、以下の到達目標達成を目指しています。</p> <p>この授業の具体的な到達目標は、以下の4つとなっています。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>「課題（命題）」とは何かを思索し、自己の「課題」を設定し、「証明」するための論理構造（ロジカフレームワーク）を構築する。</li><li>「課題」を「証明」できる量的データを考察し、データ取得方法を企画立案する。（数と量の違い、統計と確率、集合、証明できるデータの選定）</li><li>量的研究手法、実験手法による情報・データの整理・分析手法を取得する。（調査・実験計画作り、アンケート作り、量的データ取得・分析方法）</li><li>論文の構成力、論述力を獲得する。</li></ol>			
<b>【授業計画】</b>			
<p>授業は、レポート提出、スクーリング、事後学習、科目修得試験（レポート方式）で構成します。</p> <p>全15回の授業計画については、下記の通りです。ただし、本学は通信制ですので、全てを対面（スクーリング）で行うわけではありません。スクーリングは、論文に関わる調査</p>			

研究を行う量的研究方法について、講義、対話、グループワークなどの多様な方法で、目標に向かって総合的に実施します。ですので、テキスト、参考文献を読み、スクーリング事前学習、事後学習を行ってください。

- ① 客観的、間主観的、主観的な情報・データについて理解する。
- ② 論文で証明したい課題（問題定義）を設定する。
- ③ 課題を証明する論理構成を策定する（課題を証明する論理構造：ロジカルフレームワークを作成する）
- ④ 論理構造の各階層を証明する情報、データを策定し、対話、ディスカッションによって十分であるかどうかを検証する。
- ⑤ 量を測ることについて
- ⑥ 量を数値化（視覚化）することについて
- ⑦ 確率論と統計の関係
- ⑧ 推測統計の取り扱いについて
- ⑨ 統計的証拠とその解釈
- ⑩ 調査と実験に関する研究計画（実験計画法等）
- ⑪ 解析環境の整備
- ⑫ 社会調査における事実とは何か？相関関係と因果関係の違い。
- ⑬ 質問票作りの難しさ。
- ⑭ 質問票作りとアンケート調査実施の実践法。
- ⑮ 論理構成の各階層に従って論文の目次を策定、推敲する。

試験

#### 【評価方法】

課題レポート 25%、スクーリング 25%、科目修得試験 50%となります。科目修得の総合評価の観点は以下です。

- (1) 論理構成（ロジカルフレームワーク）が納得できる構造になっているかどうか。
- (2) 論理構成の各階層を証明する適切な情報、データが選定されているかどうか。
- (3) 最適な調査手法が選定されているかどうか。
- (4) スクーリングで学修したことを踏まえているか。
- (5) テキスト、参考文献を熟読・熟考している跡がみられるか
- (6) 文献に関わるクリティカルシンキング（批判的思考）ができているか

スクーリング評価は、スクーリング時の積極的な発言と発表内容になります。

#### 【教科書】

1. 統計入門（ちくま学術文庫）、盛山和夫（2015）、ISBN-10: 4480096728 ISBN-13: 978-4480096722

2. 実験計画と分散分析の話 (2013) 日科技連出版社、ISBN-10: 481719457X、ISBN-13: 978-4817194572
3. 谷岡一郎著(2007) (ちくまプリマー新書)、データはウソをつく—科学的な社会調査の方法 ISBN-10: 4480687599 ISBN-13: 978-4480687593

**【参考図書】**

1. 山崎 康司著、(2011)、入門 考える技術・書く技術、ダイヤモンド社、ISBN-10: 4478014582、ISBN-13: 978-4478014585
2. 小田 利勝 (著) (2009) (プレアデス出版)、社会調査法の基礎 ISBN-10: 4903814254 ISBN-13: 978-4903814254
3. 数学の参考図書: 細谷雄三 (2004) 統計的証拠とその解釈 増補版 (数理情報科学シリーズ (9))、ISBN-10: 479520148X ISBN-13: 978-4795201484
4. 山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎 (2008) (オーム社)、Rによるやさしい統計学 ISBN978-4-274-06710-5